

農林水産大臣賞（被害防止部門（団体））

地域住民が主体となり「防除」「追い払い」「捕獲」を3本柱とする地域ぐるみのサル対策として、おじろ用心棒の設置、煙火による組織的な追い払い、発信機による群れ管理、ICT捕獲柵による捕獲を実施。獣害対策を地域づくりの手段として捉え、「守るべき農地」を明確化し、農事組合法人による耕作面積を6haから20ha以上に拡大。

かわい
川合地域農場づくり協議会

とさ ゆうじ
(代表：土佐 祐司)

主な取組

京都府福知山市

- サル位置情報共有システム「サルイチ」の導入により地域住民に群れの位置情報を共有し、過去の行動パターンから進路を予想することで、地域全体での追い払いを実施。また、判明した群れのルート上に遠隔で監視・捕獲が可能なICT捕獲柵「ロボットまるみえホカクン」を設置。群れが捕獲柵に近づいてくる時期を把握し、集中的な誘引を実施することで、捕獲効率が向上。
- 設置済のおじろ用心棒に対して、電柵電圧遠隔管理システム「エフモスジュニア」を導入。電牧器本体の故障、雑草等による漏電、倒木等による断線やバッテリー切れなどの異常事態に対して、遠隔で確認することで、電気柵の防除効果を高い状態で維持することが可能となった。
- 地域内の廃校となった小学校をキャンプ場として活用し、里山体験コンテンツとして「柿のもぎ取り体験」を実施し、人手不足等で実施できなくなった放任果樹の除去を行い獣害対策につなげている。

【被害金額（川合地区）】

約400千円（令和元年度）→約27千円（令和4年度）